

大雨が降るとどうなるの？

まずは風水害はどのようなものか、なぜ起こるのか、起こるとどうなるのか、知っておこう！

土砂災害とは

急傾斜地の崩壊

斜面が突然崩れ落ちる災害。地震でも発生する。

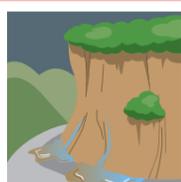


土石流

山腹や川底の石や土砂が、長雨や集中豪雨などの大量の水と一緒に流れて津波のように襲ってくる災害。



前兆現象



がけから水が湧き出ている



がけから小石がぱらぱら落ちてくる



急に川の水がにごり流木がまざる



がけに割れ目が見える



山鳴りがする



雨が降り続けているのに川の水位が下がる

前兆現象は、土砂災害の危険性が高まっていることを示しているよ。この現象を見たらすぐ避難しよう。

山が崩れるとどうなるの？

家屋など建物が倒壊するおそれ

土砂の大きな力によって、家屋など建物が倒壊する可能性があります。



集落が孤立化するおそれ

道路などに土砂が流出すると、道路が寸断されるため、集落が孤立化する場合もあります。



出典：災害写真データベース（一般財団法人消防防災科学センター）

水害とは

どこでも起こる可能性のある内水氾濫

大雨により、河川の水位が上昇することで下水道や水路からの排水ができなくなり、水があふれ出す現象を「内水氾濫」といいます。



外水氾濫（男里川、茶屋川など）

大雨によって河川を流れる水が大幅に増え、堤防から水があふれたり、堤防が決壊することにより水が流れ出す現象を「外水氾濫」といいます。



氾濫するとどうなるの？

道路の冠水



エンジンが停止したり、ドアが開かないなど、車内から出られないことがあります。

床下・床上浸水



流れ込んでくる水は泥水であり、水が引いた後も土砂や汚泥が堆積するため、片付けが大変です。

家屋の倒壊



河川沿いでは、家屋が倒壊し、命の危険性もあります。

こんな所にも注意しよう！

● 家屋倒壊等氾濫想定区域

家屋の倒壊をもたらすような氾濫や河岸の侵食が発生するおそれがある堤防沿いの地域は、早期の立退き避難が必要な区域です。

氾濫流



堤防の決壊や氾濫流により木造家屋の倒壊のおそれがあります。

河岸侵食



地面が削られて家屋が崩落するおそれがあります。

● 浸水継続時間が長い区域

浸水継続時間は、浸水の深さが50cm以上になってから、50cmを下回るまでの時間を示したものです。「阪南市総合防災マップ」では浸水継続時間が12時間以上の区域をP11の地図に表示しています。

浸水継続時間が長い区域で立退き避難を行わなかった場合、ライフラインが絶たれ避難生活が困難になるおそれがあるため、早めに避難しましょう。

食料がくさって食べるものがなくなった

電気がないと灯りが使えない情報が入らない

水道・ガスが使えない

ゴミがたまって袋が不足する



大雨のとき、どのように避難するの？

自宅の外への避難

注目!!



日ごろしておくこと

自宅周辺の災害危険性を把握しておきましょう

洪水や土砂災害が起きたときに、自宅が倒壊したり、深く浸水したりする危険性がないかを把握し、自宅の外へ避難する必要があるのかを確認しておきましょう。

避難先・経路・方法を確認しておきましょう

安全な避難先と避難経路を家族や地域で確認しておきましょう。また、徒歩で避難することが基本です。



非常持出品の準備をしておきましょう

非常持出品リストは **38** ページ

自宅の中での避難

屋内安全確保をするために日頃から備蓄をしておきましょう。ハザードマップを見て、浸水深よりも自宅が高いか確認しましょう。

家庭内備蓄品リストは **38** ページ

大雨が降りそうになったら

情報を収集して避難判断をしましょう

06 ページ 情報の収集は

05 ページ 避難判断の目安は

阪南市からの防災情報

避難指示などに注意を!



携帯電話

ラジオ

テレビ

パソコン

雨量・河川水位情報などの収集!



避難するとき

ご近所に声をかけましょう

単独での避難は、思わぬ事態にあったときに危険です。避難する前にご近所に声をかけ、集団での避難を心がけましょう。

自主防災組織に参加しよう! P33 ぐらしの安心ダイヤル事業 P37



注意して避難しましょう

動きやすい服装で、必要最小限の荷物で、避難しましょう。

非常持出品・家庭内備蓄品リスト……P38



河川や水路などには、近寄らないようにしましょう。



やむなく浸水の中を歩かなければならないときの注意

長靴はぬげることがあるのでなるべく運動靴にしましょう。



水の中の障害物に注意しましょう。



マンホールに気づかず吸い込まれてしまう場合があります。危険ですので、注意しましょう。



高齢者や身体の不自由な人などの手助けをしましょう。



幼児は浮き袋やベビーバスなどが便利です。



氾濫による水は汚水が混ざっているため、むやみにさわらないようにしましょう。



車は約30cmの浸水深で走行困難になります。



人が歩ける深さの目安は50cmから70cmくらいです。※水の流速によっては歩けない場合があります。



危険な場所には近寄らないようにしましょう。



避難所では

避難所では互いに気を遣いましょう

避難所では、不特定多数の人々が一定期間滞在することになります。高齢者や障がい者、乳幼児を抱えた方などへの気配りを心がけましょう。また、できる限りの感染症対策を行いましょう。

災害時の感染症対策……P38



- 飼い主さんが無事であること 災害時、ペットを守るのは飼い主さんだけです。まずはご自身の安全を確保しましょう。
- 一緒に避難すること(同行避難)
- 避難は「自助」が基本です 飼い主さんは避難所でのルールに従って、飼い主さんの責任でお世話しましょう。

ペットの飼い主の方へ

共通編

風水害編

地震災害編

ロケットからの備え

共通編

風水害編

地震災害編

ロケットからの備え